三鷹市立第　中学校　令和8年度 【理科】 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	【成果】 ○実験計画を立てる場面では、日常の経験や既習事項を使って、考えられる生徒が多い。 ○自分の考えや意見を書ける生徒が多い。 【課題】 ○基礎的・基本的な知識の定着ができていない生徒がいる。 ○結果をもとに考察する場面では、論理的に書けない生徒がいる。	【現状】 ○実験や観察に意欲的に取り組む生徒が多い。 ○課題に対して自分の意見や考えは記入することができる生徒は多いが、発表をする生徒が少ない。周りと意見交換をすると、発表する生徒が増える。 【課題】 ○基礎的・基本的な知識の定着ができていない生徒がいる。 ○実験・観察から得られた結果から考察を理由づけて記入できない生徒がいる。	○項目が終わるごとに学習内容を振り返り、記入する時間を設け、学習内容を整理することで、知識の定着を図る。 ○実験・観察では、結果をもとに、考察では「規則性、関係性、共通点や相違点、分類するための観点や基準」を見出して表現できるように指導をする。 ○小テストや問題演習の時間を確保し、定着が必要な内容は、繰り返し学習する機会をつくる。 ○学習用タブレット端末を利用し、理解が難しい内容については動画や静止画を利用して理解が深められるようにする。
第2学年	【成果】 ○考えを伝えたり、他者の考えを聞いたりする姿勢が身に付いてきた。 ○学習内容を振り返る活動を継続したことで、学習内容を整理する習慣が身に付いた。 ○実験に意欲的に取り組む生徒が多く、結果を記録しようとする姿勢が見られた。 【課題】 ○実験結果を既習事項や科学的根拠と結び付けて説明する力には課題が残った。 ○基礎知識の定着について、生徒間の差が見られた。	【現状と課題】 ○実験・観察に意欲的に取り組み、班で協力しながら活動できる生徒が多い。 ○課題に対して自分の考えをもち、小グループで意見を伝え合うことができる生徒が増えている。 ○一方で、実験結果を「結果」として記録することはできても、結果から何がいえるのかを根拠を明確にして説明することに課題がある。 ○既習事項や実験結果を関連付けて考察したり、複数の情報を整理して自分の考えを文章で表現したりする力には個人差がある。 ○用語や公式などの基礎的な知識について、継続的な定着を図る必要がある。	○実験・観察では、「予想→結果→考察→結論」の流れを意識させ、結果と考察を区別して記述できるよう指導する。 ○考察では、「結果（事実）＋既習事項（根拠）→分かること（結論）」という基本的な型を示し、科学的な根拠をもって説明する力を育成する。 ○個人で考える時間を確保した上で、小グループで考えを共有し、他者の考えを参考に自分の考えを修正・深化させる活動を取り入れる。 ○単元や項目の終末に振り返りを行い、「何を学んだか」だけでなく、「どのように考えて分かったか」を言語化させる。 ○用語・公式等については、小テストや短時間の復習を継続して行い、基礎的な知識の定着を図る。 ○ICTを活用して実験結果を学級全体で共有・比較し、複数の結果から共通点や傾向を見いだして考察する活動を充実させる。
第3学年	○振り返りシートを用いて、毎時の授業改善を行うことができた。同時に、生徒自身が学びを振り返り、深めることができる機会を設定した。 ○実験・観察を生徒が主体的に取り組めるよう、生徒が疑問を見出したり課題を設定したりする活動を重点的に行った。また、時事的な話題を取り入れたりすることで、学習を自分事として捉えさせ、意欲を高める取り組みを行った。	【成果】 ○授業に対して主体的に取り組むことができる生徒が多い。 ○簡単な実験計画を立てて自らの考えを基に、安全に実験を行うことができる。 【課題】 ○授業内容が定着していない生徒が少数ながら存在している。 ○結果をもとに考察する力や分析・解釈する力を伸ばすためにさらに取り組みを進めていく必要がある。	○単元を振り返る課題に取り組み、学習内容を俯瞰し、整理することで、知識の定着を図る。 ○課題解決のために、実験計画を立案する機会を増やし、結果をもとに考察する力や分析解釈する力を養う。 ○小テストや問題演習の時間を確保し、定着が必要な内容は、繰り返し学ぶ機会を作る。 ○授業の中で特に理解が遅れがちな生徒には、放課後の時間を活用しながら、教師が手厚くサポートしたり、友達同士で教え合ったりする時間を設定し、学習の遅れが出ないように努める。